

ANNUAL REPORT 2024



まちづくり&組織の活性化
ファシリテーション

SOCIAL ACTY

一人ひとりが生き生きと生活できる社会の実現を目指しています。



What's Social acty ?

「一人ひとりがいきいきと生活すると集団や組織もいきいきしてくる。そして、社会全体もいきいきしてくる。」そんなことを願っています。
そのためには、一人ひとりが持っている能力が発揮できること。
それを引き出すお手伝いをしたいと考えています。
Facilitationは、引き出す、容易にする、という意味があります。
能力を引き出す、やる気を引き出す、成果を引き出す。
まちづくりも組織も社会も楽しくなりますね。
ご興味がある方はお気軽にお問い合わせください。

Contact

株式会社 ソーシャル・アクティ
代表取締役 林 加代子



HP <http://social-acty.com>
TEL 0564-53-0370
MAIL social-acty@m4.catvmics.ne.jp

For Children

～小学生・中学生・高校生～



夏休みの一日、額田地区の木匠家「がんだ先生」が、子ども達にオリジナルの木工作「ウッディボム」の講座をしてくださいました。工作の助手をしました。ウッディボム弾けてました。



不適切保育ガイドラインではなく「適切な関りのためのガイドライン」づくりを自治体内の保育園の主任先生、園長先生、そして専門家と一緒に作成しました。



スティーム：STEAM（科学：Science、技術：Technology、工学：Engineering、芸術：Art、数学：Mathematicsの5つの分野を統合的に学ぶ）教育の体験の場をつくりました。



中高生で行う「子ども会議」今年も、こども基本法をうけて、自治体の政策決定のさまざまな段階で、「どんな形態が子どもの意見を反映しやすいか」について話し合いました。

Work Shop

～on-line 場づくり 防災～



コロナ禍で編み出した「on-line HUG（避難所運営ゲーム）」アジアの医学学生のフォーラムで活用していただきました。文化の違いも乗り越えて、医学部生的な視点で話し合ってくれました。



2024年3月で10周年となりました、未来茶輪（ミライカフェ）。1月に1回、まちづくりをしていらっしゃるゲストのトーク、参加者で対話というスタイルで開催してきました。みなさま、ありがとうございました。



地域で活躍する喫茶店主の主催で、HUGをする機会をいただきました。「地域に住んでいても、まだまだ知らないことがたくさん！」とのご感想。その後、実際に小学校へ出かけたり、備品倉庫を確認したりしたとのこと。



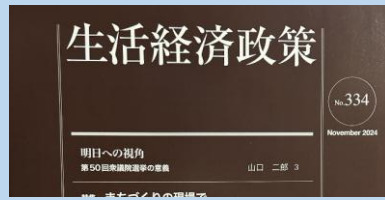
NPO法人日本ファシリテーション協会は21年目。年に1回、全国から仲間が集まり、ファシリテーションについて語り合います。今回はニュースレターの宣伝を担当しました。

Research & Development

視察&研究・論文



2024年4月と6月に能登へ視察に行きました。行った先で、この「ゲル（と私は呼んでいます）」に遭遇！名古屋工業大学の北川先生の作品です。大学内に展示してありました。



特集まちづくりの現場で「自治体の事業から住民主体のコミュニティづくりへ～防災活動の事例～」を投稿しました。地元で行ってきた活動をまとめる機会となりました。



原発事故で帰宅困難区域だった浪江町。少しずつ解除され、新しいまちづくりが始まっています。ここでのワークショップに少しでもアドバイスさせていただきました。水素エネルギーの研究が盛んでした。



査読論文「租税教室を活用した自治意識の萌芽形成の試み」が2024年11月発行の学会誌に掲載されました。6年間担当させていただいた租税教室を、税金の面からの主権者教育になるのでは？と試みた成果をまとめました。

2024年ふりかえり

2024年は、R&Dの比重が大きい年でした。視察では、災害に関連した場所を訪れる機会に恵まれました。

能登半島には2度。4月に行ったときは、道路が陥没しており段差が激しく、普通車で行くこととサスペンションを痛めてしまいそうでした。

2か月後の6月に行ったときは、公費解体が始まったばかりで、4月とほとんど変わらない風景に愕然としました。自分が能登半島に住んでいたら…と思うと、他人ごとではないことを痛感しました。防災の活動にもっと力を入れていきたい！と思いました。

子ども基本法で、子どもが関係する政策には、子どもの意見を反映することが法律で定められました。未来を担う子ども達の意見が反映されるようにしていきたい、2024年のもう一つの柱でした。

防災、子ども、そしてDEI。学ぶこと、ファシリテーターとしてふるまうこと、少しでもお役に立てるようにしていきたいと思いました。